

135 フランス国立図書館リシュリユー館（2022年11月3日）

今年9月、約12年の工事を終えて、フランス国立図書館のリシュリユー館がリニューアルオープンしました。リシュリユー館は、パレ・ロワイヤル、オペラ・ガルニエ、ルーブル美術館の近くに位置しており、パリ中心部に新たに誕生した一般公開の文化施設です。約4000万点もの所蔵品を有する世界で最大級の図書館です。17世紀に建てられた荘厳な歴史的建造物は、18世紀にここに王立図書館が設立されて以来初めてとなる大規模な改修工事が行われました。フランスの国内外から数多くの企業や団体が、この歴史遺産の継承と活用のためにメセナとして協力をしました。図書館を刷新して、より多くの人に開かれた場所にするために、日本企業の高い技術力が用いられました。

リシュリユー館のリニューアルの目玉の一つが、2階に設けられたミュージアムの開館です。古代から現代まで時系列に作品が展示され、フランスの歴史の流れがわかるようになっています。見学ルートは、ルーブル美術館のギリシャ・ローマ部門で見るような作品から始まります。日本の図書館の役割は、文献や資料の収集と保存、情報の利用提供といった文献に関連するものである一方、フランス国立図書館が、文献だけではなく美術品も数多く所蔵して、より幅広い意味での文化施設であることがわかります。

見学ルートを進むと、ルイ15世の間があります。18世紀にルイ15世が蒐集したコインなどのコレクションを来訪客に公開するために整備された場所



で、パリで最初のミュージアムの一つという



ことができるかもしれません。壁には、フランソワ・ブーシェを始めとする画家の作品が飾られています。大日本印刷が、これらの絵画の解説を画像とともに閲覧できるタッチパネルのビューアを開発しました。修復前の画像も見ることができ、ビフォア・アフターを比較できます。フランス語、英語、スペイン語に加えて、日本語でも説明が表示され

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ます。同様のビューアは、マザラン・ギャラリーにも設置されており、ギリシャ神話が描かれた天井画の解説を読むことができます。凹凸のある天井画の3D画像を撮影するのは、同社が培ってきた高度な技術をもってしても大きなチャレンジだったと言います。最新技術のおかげで、私たちは肉眼では細部を見ることができない天井画を鑑賞することができるのです。

もう一つ、図書館の近代化に貢献している日本のものがあります。1階にある楕円形の閲覧室の中で、一番手に取りやすい場所には、バンド・デシネ（漫画）が並べられた棚があります。フランス人作家の作品に加えて、日本の漫画のフランス語訳もあります。バンド・デシネ（漫画）を来場者の最もアクセスのよい場所に置くことで、より多くの人に開かれた図書館の姿を目指したのでしょう。



日本企業の最新技術と日本の漫画が、フランス国立図書館の革新に貢献したことを嬉しく思いました。同時に、文化施設としての図書館の在り方や新しい図書館のモデルとして、日本はフランスから学ぶことが多いとも感じました。

フランス国立図書館美術館 <https://www.bnf.fr/fr/le-musee-de-la-bnf> (仏語)